



にいがた
勤務医ニュース

発行所
新潟県医師会
新潟市中央区医学町通2-13
TEL 025(223)6381

社会から求められる 産婦人科医

新潟大学大学院医歯学総合
研究科 産科婦人科学 教授
吉原 弘 祐



「産婦人科の魅力」をテーマに特集を組んでくださった新潟県医師会の皆様、心より御礼申し上げます。今回、複数の先生方がそれぞれの視点から産婦人科の魅力を語ってくださると思いますので、私は俯瞰的な視点からその魅力をお伝えしたいと思います。

産婦人科は、周産期、生殖内
分泌、婦人科腫瘍、

支える産婦人科が、社会経済的にも極めて重要な役割を担っていることが分かります。特に、月経不調や更年期障害、子宮がんや卵巣がんの増加など、女性の健康と生活の質に与える影響が大きい分野です。産婦人科医は、女性の健康を維持し、生活の質を向上させるために、最新の医療技術と人間的なケアを提供する必要があります。

奥深い 産婦人科の魅力

聖隷浜松病院 産科部長／総
合周産期母子医療センター長
村越 毅



「もう一度、研修医からやり直せたら何科を選びますか？」と問われると、迷わず「産婦人科！」と答える医師は、何となく魅力を感じたのか、どうして産婦人科を目指したのか、これについては今では十分に語ることができ、産婦人科の魅力を改めて感じています。

産婦人科の奥深い魅力は、女性の健康と生活の質を守ること、そして、最新の医療技術と人間的なケアを提供することです。産婦人科医は、女性の健康を維持し、生活の質を向上させるために、最新の医療技術と人間的なケアを提供する必要があります。

産婦人科の奥深い魅力は、女性の健康と生活の質を守ること、そして、最新の医療技術と人間的なケアを提供することです。産婦人科医は、女性の健康を維持し、生活の質を向上させるために、最新の医療技術と人間的なケアを提供する必要があります。

産科救急と女性医学

新潟市民病院 総合周産期
母子医療センター 産科部長
倉林 工



産科救急と女性医学は、女性の健康と生活の質を守ること、そして、最新の医療技術と人間的なケアを提供することです。産婦人科医は、女性の健康を維持し、生活の質を向上させるために、最新の医療技術と人間的なケアを提供する必要があります。

産婦人科の魅力

産婦人科の魅力は、女性の健康と生活の質を守ること、そして、最新の医療技術と人間的なケアを提供することです。産婦人科医は、女性の健康を維持し、生活の質を向上させるために、最新の医療技術と人間的なケアを提供する必要があります。

産婦人科の魅力は、女性の健康と生活の質を守ること、そして、最新の医療技術と人間的なケアを提供することです。産婦人科医は、女性の健康を維持し、生活の質を向上させるために、最新の医療技術と人間的なケアを提供する必要があります。

産婦人科の魅力は、女性の健康と生活の質を守ること、そして、最新の医療技術と人間的なケアを提供することです。産婦人科医は、女性の健康を維持し、生活の質を向上させるために、最新の医療技術と人間的なケアを提供する必要があります。

野生の勘

埼玉県済生会川口総合病院
産婦人科 主任部長
高橋 裕子



私の勤務している埼玉県済生会川口総合病院は、新設された産婦人科の総合病院で、最新の医療技術と人間的なケアを提供しています。

産婦人科の魅力は、女性の健康と生活の質を守ること、そして、最新の医療技術と人間的なケアを提供することです。産婦人科医は、女性の健康を維持し、生活の質を向上させるために、最新の医療技術と人間的なケアを提供する必要があります。

う日々努力することが求められます。中でも、最近は改めて分娩の魅力を実感しています。自然分娩に勝る力はないわけですが、正常の分娩経過から逸脱するものをどのタイミングでどう介助し分娩に誘導するか。過信せず引き際をわきまえながら、母児の生命の安全を最優先に、患者・家族の納得を得て、新たな命の誕生の一場面に医師として関与することができることに、何にも代えがたいやりがいを感じます。年を重ねるごとに怖い思いもし、そのたびに先人に教わ

ったことや学んだ知識をかみしめ「分娩は怖いけどやっぱり面白い」と感じています。年代的に管理者や指導者という役割の仕事も増えましたが、やはり患者さんを目の前にすると、勉強しなければと必要に迫られ、勉強すればまた視野が広がりが前進できる、そして患者さんの喜んでくださる姿がなにより励みになりますので、臨床医として進歩できるよう努力し続けたいと思います。

平成20年に医師となり、研修医として将来の進路選択を考えたい頃、産婦人科研修中に、悪性腫瘍と最期まで対峙された方のお見送りをした直後に他の方の分娩に立ち会い、気持ちが大きく揺さぶられたことがありました。産婦人科医としてそれぞれの場面で的確な対応をしていく上級医の姿は、私が産婦人科へ進むきっかけとなりました。産婦人科は周産期・生殖内分泌・婦人科腫瘍・女性ヘルスケアなどさまざまな視点から女性

利な鉗子を体内で扱うことに恐怖を感じ、どちらかと言うとマインスのイメージを持った記憶があります。練習ボックスを自作し釣り針を使って縫合のトレーニングをしていた上級医の向上心を当時理解することは不可能でした。それが時を経て、手術を学ぶ機会をいただき、日常臨床として行うことが通常となりました。育成力向上に寄与するために何ができるか試行錯誤

築く上でとても重要だと感じるようになりました。外来では、悪性腫瘍や良性腫瘍以外にも不妊症や月経困難症、更年期障害、骨盤臓器脱など多岐にわたる診療を行います。患者さんにとつての最良の治療は、生活スタイルやライフステージによって異なります。育児希望や妊娠性の温存にも配慮する必要があります。同じ疾患でも治療法にはいくつかの選択肢が考えられます。外科的治療と薬物療法を組み合わせた治療を選択することは時に難しく感じることもありますが、同時にやりがいを感じます。

好きこそ物の上手なれ

新潟県立がんセンター
新潟病院 婦人科部長 西川 伸道



私は1998年に新潟大学を卒業し、新潟大学の産婦人科に入局しました。院が数多くあり、なんでも診れる医師が求められていた気がします。しかし、今では関連病院も集約化され、産婦人科の医師が5名以上いるような病院になっています。また、当院のような悪性腫瘍を主体に扱う病院、腹腔鏡などの良性腫瘍に特化した病院や不妊症を主体に扱う病院など、分娩に加え関連病院も特徴的な病院が増えていきます。そのため、サブスペシャリティを取得した専門的な医師が求められてきていると個人的に思っています。「好きこそ物の上手なれ」とは言いますが、興味のあることはスキルアップも早く、その分野に特化した診療ができる点は産婦人科の魅力ではないかと思っています。

私のことですが、研修医2年目で県立中央病院、3年目でがんセンターと手術を多くやっていた病院で研修しました。その後大学院に行き、関連病院に数年勤務後、大学病院に10年以上在籍していました。研修医時代から大学まで手術を教えてくれる上司に非常に恵まれてきたと思います。また全国の手術のエキスパートと言われるような先生の手術の見学もすんで行ってきました。現在県立がんセンター・新潟病院に勤務して3年目になります。興味のある手術の技術を磨くことで患者様を助けられていくことに非常にやりがい

幅広く、唯一無二の診療領域が産婦人科の魅力

産婦人科は多様な視点から女性に寄り添うことのできる科です。初めのきっかけは何であれ、学び続ける中で興味が広がっていきことも多いです。内的にも外的にも大きく変動する女性の一生をより良いものとするために、患者さんとその家族のニーズや価値観を尊重しながら柔軟に対応していける医療者でありたいと思います。



私は平成30年に新潟大学を卒業し、産婦人科医として現在6年目になります。私が産婦人科を意識し始めたのは、医学部5年生のときでした。実習で各科を回るうち、内科と外科どちらの要素も持つ科に惹かれました。もちろん他科と連携する場面はあるのですが、診療内容が重なる科はほとんどなく、診断から治療まで一貫して行えることは、産婦人科の大きな魅力だと感じています。いくつもある候補の中で産婦人科に決めたのは、特に産科の診療に魅力を感じたからです。判断を間違えれば母児2人（以上）を危険に晒すことになるため、状況をしっかりと把握して正しい判断を速やかに下す必要があり、大きな責任が伴います。

その一方、妊婦健診ほど明るい雰囲気の外来はないと思いますし、新たな生命が誕生する瞬間はとても感動的です。分娩は休日・夜間でも関係ありませんが、笑顔の産婦さんに感謝の言葉をいただく度に産婦人科をやっている本当に良かったと思います。産婦人科は女性の一生を診る科であり、力になる領域が広いのも特徴です。私は、入局してまず済生会新潟病院に赴任し、経産分塊・妊婦健診・帝王切開といった周産期領域の基本を中心に教わりました。新潟市の婦人科輪番を担当していることもあり、異所性妊娠や卵巣腫瘍、急転等の緊急手術も珍しくありませんでした。その後の新潟大学医歯学総合病院や長岡赤十字病院、新潟市市民病院では、重症の妊娠高血圧症候群や胎児発育不全等のいわゆるハイリスク妊娠／分娩管理や、悪性腫瘍の手術・抗がん剤治療を経験しました。村上総合病院では、良性腫瘍・月経異常・更年期障害等の外来管理がメインでしたが、近くに開業の産婦人科がな

産婦人科後期研修を終えて

柏崎総合医療センター 産婦人科 部長 加藤 奈都美



私が最初に産婦人科に興味を持ったのは、医学部3年生で配属された研究室の基礎研究室の中で産婦人科を選んだ理由は、女性の体のことは自分にも関わることであり、興味を持って研修をできそうというぶんやりとした理由でした。同級生3人が配属されたのですが、研究テーマはそれぞれ腫瘍、不妊症、女性ヘルスケアでした。私はその中でも不妊症をテーマに1か月の研修をさせていただきました。研修前は産科領域のイメージが強かったのですが、このときに産婦人科に対する印象がガラリと変化しました。「産婦人科は人が産まれる前から亡くなるまでの一生をみることでできる科」という印象が強くなり、

産婦人科は多様な視点から女性に寄り添うことのできる科です。初めのきっかけは何であれ、学び続ける中で興味が広がっていきことも多いです。内的にも外的にも大きく変動する女性の一生をより良いものとするために、患者さんとその家族のニーズや価値観を尊重しながら柔軟に対応していける医療者でありたいと思います。

編集後記

今回の勤務医ニュースは産婦人科の先生方からご寄稿頂きました。お産や婦人科特有の病気の年齢者までほぼ全ての世代を診ることでできる婦人科の先生方に改めて敬意を表したいと思えます。卒業すると同時に、どの科に進むか決めなくてはならなかった時代を生きてきた人間としては、今の研修医は実際の臨床を回りながら、2年間じっくり考えてみることも可能となっていて羨ましい面もあります。臨床研修後は研究者や行政への道を志す人もいます。今まで自分が選んできた道は決して間違っていないし、この先も、どの科や、どの道を選んでいくか、必ずや輝く未来が待っていると思えます。先輩等にも相談しながら、しっかりと悩み、考え、将来を見据えて、自分の進むべき道を選んでほしいと思います。

産婦人科は多様な視点から女性に寄り添うことのできる科です。初めのきっかけは何であれ、学び続ける中で興味が広がっていきことも多いです。内的にも外的にも大きく変動する女性の一生をより良いものとするために、患者さんとその家族のニーズや価値観を尊重しながら柔軟に対応していける医療者でありたいと思います。

産婦人科は多様な視点から女性に寄り添うことのできる科です。初めのきっかけは何であれ、学び続ける中で興味が広がっていきことも多いです。内的にも外的にも大きく変動する女性の一生をより良いものとするために、患者さんとその家族のニーズや価値観を尊重しながら柔軟に対応していける医療者でありたいと思います。

産婦人科は多様な視点から女性に寄り添うことのできる科です。初めのきっかけは何であれ、学び続ける中で興味が広がっていきことも多いです。内的にも外的にも大きく変動する女性の一生をより良いものとするために、患者さんとその家族のニーズや価値観を尊重しながら柔軟に対応していける医療者でありたいと思います。

産婦人科は多様な視点から女性に寄り添うことのできる科です。初めのきっかけは何であれ、学び続ける中で興味が広がっていきことも多いです。内的にも外的にも大きく変動する女性の一生をより良いものとするために、患者さんとその家族のニーズや価値観を尊重しながら柔軟に対応していける医療者でありたいと思います。

産婦人科は多様な視点から女性に寄り添うことのできる科です。初めのきっかけは何であれ、学び続ける中で興味が広がっていきことも多いです。内的にも外的にも大きく変動する女性の一生をより良いものとするために、患者さんとその家族のニーズや価値観を尊重しながら柔軟に対応していける医療者でありたいと思います。